

小児科

多和昭雄

小児科では、以下の疾患に重点的に取り組んでいる。

新生児医療：先天性脳神経疾患の新生児、血液疾患および内分泌・代謝疾患の母親から出生した新生児、健康新生児ならびに病的新生児、HIV 母子感染予防。

高度小児専門医療：骨系統疾患、発育・発達障害、血液、がん、消化器、内分泌、膠原病、アレルギー、神経、児童虐待、感染症（HIV 感染症を含む）。

成人化した小児難病治療：小児難病患者の内科専門外来への円滑なバトンタッチ。

臨床研究として、全国規模の group study である小児白血病研究会（JACLS）および inter-group である日本小児白血病リンパ腫研究グループ（JPLSG）の参加施設として白血病・悪性リンパ腫に関する治療研究を行っている。なかでも小児急性骨髄性白血病(AML)に関しては多和科長が研究代表者として小児 AML の標準的治療を確立するための全国統一の治療研究「小児急性骨髄性白血病（AML）に対する多施設共同後期第Ⅱ相臨床試験 AML-05」を主導している。また、日本ユーイング肉腫研究グループに参加しユーイング肉腫の治療研究を行っている。いずれの場合も治療に直結した実践的な医療、患者の QOL の改善に資するための研究を心がけている。また、厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 感染妊婦とその出生児の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究」班の研究協力者、厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「小児がんに対する標準治療・診断確立のための研究」班の研究分担者、厚生労働科学研究費補助金がん臨床研究事業「成人がん患者と小児がん患者の家族に対する望ましい心理社会的支援のあり方に関する研究」班の研究協力者として参加している。

【2010 年度研究発表業績】

A-0

Kudo K, Hama A, Kojima S, Ishii R, Morimoto A, Bessho F, Susami S, Kobayashi N, Kinoshita A, Okimoto Y, Tawa A, Tsukimoto I: Mosaic Down syndrome-associated acute myeloid leukemia dose not require high-dose cytarabine treatment induction and consolidation therapy. Int J Hematol 2010, 91(5): 630-635 (2010 年 5 月)

Imaizumi M, Tawa A, Hanada R, Tsuchida M, Tabuchi K, Kigasawa H, Kobayash R, Morimoto A, Nakayama H, Hamamoto K, Kudo K, Yabe H, Horibe K, Tsuchiya S, Tsukimoto I: Prospective study of a therapeutic regimen with all-*trans* retinoic acid and anthracyclines in combination of cytarabine in children with acute promyelocytic leukemia: the Japanese childhood acute myeloid leukaemia cooperative study. Br J Haematol 2010, 152(1): 89-98 (2011 年 1 月)

Yoshida H, Hashii Y, Okuda T, Kusuki S, Sato E, Inoue A, Kawakami C, Yabe M, Ohta H, Ozono K. A case of congenital bone marrow failure with radio-ulnar synostosis. Int J Hematol 2010;91: 331-332

Sato E, Ikeda K, Yoshida H, Kusuki S, Hashii Y, Ohta H, Ozono K. Septic pulmonary embolism from Staphylococcus haemolyticus during neutropenia. Pediatr Int 2010;52: e121-124

Matsumura R, Ohta H, Kusuki S, Yoshida H, Sato E, Hashii Y, Uehara S, Oue T, Fukuzawa M, Ishida H, Ozono K. Retropharyngeal Neuroblastoma in an Infant: Management Without Surgery. J Pediatr Hematol Oncol 2010;32: e160-163

Ohta H, Kusuki S, Yoshida H, Sato E, Hashii Y, Ozono K. Allogeneic hematopoietic stem cell transplantation with reduced intensity conditioning for a child with recurrent anaplastic large cell lymphoma. Int J Hematol 2010;92:190-193

A-2

多和昭雄：再発・難治性 AML（急性骨髄性白血病）に対する治療の EBM は？「EBM 小児疾患の治療」 五十嵐 隆、531-537 中外医学社 東京、 2011 年 2 月

A-3

上原秀一郎、楠木重範、山中宏晃、上野豪久、佐藤恵実子、橋井佳子、太田秀明、大植孝治、福澤正洋：全身状態不良により化学療法の減量を行った PRETEXT IV 肝芽腫の 1 切除例。「小児がん」 47(3): 466-470, 2010

A-4

多和昭雄：特集小児白血病・リンパ腫診療のアップデート III.病態と治療 急性骨髄性白血病。「小児科診療」 73: 1339-1346, (2010 年 8 月)

A-5

多和昭雄：小児急性骨髄性白血病の標準的治療法の確立に関する研究。厚生労働科学研究費補助金（がん臨床研究事業）「小児造血器腫瘍の標準的治療の確立に関する研究」平成 21 年度総括・分担研究報告書 P.36-39 2010 年 4 月

B-2

Tomizawa D, Saito A, Taga T, Adachi S, Nakayama H, Moritake H, Azuma E, Kinoshita A, Takahashi H, Imaizumi M, Kudo K, Hama A, Tsurusawa M, Horibe K, Tawa A. AML committee, The Japanese Pediatric Leukemia & Lymphoma Study group: Unexpected high mortality rate due to acute respiratory distress

syndrome among infants with AML enrolled on JPLSG AML-05 trial. 7th Bi-Annual Childhood Leukemia Symposium. Antalya, 2010 年 10 月

Kinoshita A, Miyachi H, Taki T, Kiyokawa N, Terui K, Ohta H, Deguchi T, Takahashi H, Taga T, Hayashi Y, Tawa A. Diagnosis division in AML committee, the Japanese Pediatric Leukemia and Lymphoma Study Group: A comprehensive and rapid approach for the central review of diagnosis in acute myeloid leukemia on the nationwide clinical trial. 7th Bi-Annual Childhood Leukemia Symposium. Antalya, 2010 年 10 月

Tomizawa D, Saito A, Taga T, Adachi S, Nakayama H, Moritake H, Azuma E, Kinoshita A, Takahashi H, Imaizumi M, Kudo K, Hama A, Tsurusawa M, Horibe K, Tawa A: Unexpected high mortality rate due to acute respiratory distress syndrome among infants with AML enrolled on JPLSG AML-05 trial. 52nd Annual Meeting of the American Society of Hematology. Orlando, 2010 年 12 月

B-4

山中宏晃、大植孝治、上原秀一郎、楠木重範、太田秀明、庄司 剛、伊達洋至、福澤正洋：同種造血幹細胞移植併用大量化学療法後に発生した重症間質性肺炎に対し生体肺移植を行った再発神経芽腫の一例。第 47 回日本小児外科学会学術集会、名古屋、2010 年 6 月

橋井佳子、楠木重範、佐藤恵実子、松村梨紗、吉田寿雄、太田秀明、大藁恵一：小児免疫機能低下患者におけるリポソーマルアムホテリシン B を用いた予防・治療の臨床効果と安全性。第 72 回日本血液学会学術集会、横浜：2010 年 9 月

富澤大輔、斎藤明子、多賀 崇、足立壮一、中山秀樹、盛武 浩、木下明俊、高橋浩之、工藤寿子、堀部敬三、多和昭雄：乳児急性骨髄性白血病における早期死亡例の検討：JPLSG AML-05 臨床試験からの報告。第 52 回日本小児血液学会総会、大阪、2010 年 12 月

伊藤雅文、木下明俊、多賀 崇、宮地勇人、滝 智彦、高橋浩之、照井君典、清河信敬、出口隆生、林 泰秀、多和昭雄、太田秀明、足立壮一：ダウン症候群に発症する急性骨髄性白血病病理中央診断の解析。第 52 回日本小児血液学会総会、大阪、2010 年 12 月

佐野弘純、嶋田 明、村田知里、朴 明子、外松 学、滝 智彦、田淵 健、多和昭雄、堀部敬三、土田昌宏、花田良二、月本一郎、林 泰秀：急性骨髄性白血病における RAS 遺伝子変異と臨床象。第 52 回日本小児血液学会総会、大阪、2010 年 12 月

橋井佳子、太田秀明、松村梨紗、吉田寿雄、楠木重範、佐藤恵実子、坪井昭博、尾路祐介、岡 芳弘、杉山治夫、大藁恵一：同種造血幹細胞移植後の難治性小児血液腫瘍患者に対する WT1 ペプチ

ドワクチンを用いた免疫療法。第 52 回日本小児血液学会総会、大阪、2010 年 12 月

岡田紫甫、太田秀明、楠木重範、吉津紀久子、井上雅美、吉田沙蘭、尾形明子、盛武 浩、平井 啓：
造血幹細胞移植ドナーとなった同胞の意思決定と心理的適応に関する研究。

第 26 回日本小児がん学会学術集会、大阪、2010 年 12 月

馬戸史子、楠木重範、松村梨紗、吉田寿雄、佐藤恵実子、橋井佳子、太田秀明、大藪恵一、大植孝
治、香川尚己、福澤正洋：チャイルド・ライフ・スペシャリスト（CLS）による小児がん患児・家
族の心理社会的ケア。第 26 回日本小児がん学会学術集会、大阪、2010 年 12 月

B-5

楠木重範：シンポジウム「小児の長期入院患者における QOL」。奈良県病弱児医療研究会、奈良、
2010 年 8 月

B-6

楠木重範、手取屋智未、吉田寿雄、橋井佳子、太田秀明：脊髄内に再発した神経芽腫の一女兒例 ～
疼痛管理からグリーフケアまで～。第 4 回大阪小児緩和ケア研究会、和泉、2010 年 6 月

楠木重範、太田秀明、吉津紀久子、岡田紫甫：小児血液腫瘍患者の造血幹細胞移植ドナーとなった
家族の意志決定と心理社会的適応に関する研究。成人がん患者と小児がん患者の家族に対する望ま
しい心理社会的支援のあり方に関する研究班（平井班）平成 22 年度第 1 回班会議、豊中、2010 年
6 月

橋井佳子、松村梨紗、吉田寿雄、楠木重範、佐藤恵実子、太田秀明、大藪恵一：小児血液腫瘍に対
する同種造血幹細胞移植後の WT1 ペプチドワクチン療法。第 12 回 WT1 癌抗原ペプチド癌免疫療
法研究会、吹田、2010 年 7 月

橋井佳子、太田秀明、松村梨紗、吉田寿雄、楠木重範、宮下恵実子、大藪恵一、坪井昭博、尾路祐
介、保仙直毅、岡 芳弘、杉山治夫：同種造血幹細胞移植後の難治性小児血液腫瘍患者に対する
WT1 ペプチドワクチンを用いた免疫療法。第 2 回造血腫瘍免疫療法研究会、松山、2010 年 8 月

楠木重範：小児血液腫瘍疾患の見つけ方。第 6 回研修医のための小児救急・新生児勉強会、大阪、
2010 年 9 月

楠木重範、岡田紫甫、太田秀明、吉津紀久子：小児血液腫瘍患者の造血幹細胞移植ドナーとなった
家族の意志決定と心理社会的適応に関する研究。成人がん患者と小児がん患者の家族に対する望ま

しい心理社会的支援のあり方に関する研究班(平井班)平成 22 年度第 2 回班会議、大阪、2010 年 11 月

乾 幸治、寺田志津子、押田奈都、山崎麻美：在宅での看取り医療を行った全前脳胞症の1例。第 11 回関西出生前診療研究会、西宮、2011年3月

B-8

尾崎由和：HIV 感染妊婦からの出生児の現状 —非感染児と感染児のフォローアップ—。「HIV 感染妊婦とその出生児の調査・解析および診療・支援体制の整備に関する総合的研究」班 研究成果発表会、奈良、2010 年 11 月